



やまなし サイエンスラボ

山梨の産業の活性化や県民生活の
向上を目指す試験研究機関の紹介

vol. ② 富士技術支援センター



世界を視野に、新技術開発で 追究する美しい織物

富士技術支援センターでは、長い歴史を持つ織物産地のさらなる発展を目指して、自然画像をもとにしたジャカード織物の研究開発や海外へのマーケティング活動の支援など、先進的な取り組みを行っています。

112年の実績を誇る 試験研究機関

富士技術支援センターは、明治38年に山梨懸工業試験場として開設、昭和61年に山梨県富士工業技術センターとなり、今年4月より、繊維技術部と機械電子技術部からなる「富士技術支援センター」として、地域に密着した支援をさらに強化しています。

センターでは、富士北麓・東部地域の中心産業である織物産業、機械電子産業の振興と技術の高度化を図るため、技術相談、講習会、新技術の研究開発、依頼試験・分析・加工、各種情報提供を行うとともに、企業に対し、機器・設備の開放も実施しています。

世界に認められる ブランド織物を確立したい



富士技術支援センター
繊維技術部 技術支援科
五十嵐 哲也 主任研究員

私が所属する繊維技術部では富士北麓・東部地域の織物産業振興のための技術支援、研究開発を行っています。この地域の織物のルーツは、江戸時代から高い技術力とデザイン力で人々の心を捉えた高級生地「甲斐絹」にあります。一方、戦後の経済成長の過程における安価な量産品との競争の中で、デザインを生み出す伝統が失われてきました。しかし、産地の中から「あの甲斐絹の時代の独自の美しさを育んだ力を取り戻したい」というねりが起き、これに呼応してセンターでもさまざまな支援を行っています。

同時に、今年7月、ミラノで開催され



センターの支援は
大きな力になって
います

株式会社横田商店
取締役工場長
横田 哲也 さん



取り込んだ写真の階調を高精度に再現し、織物組織に変換する技術(織物デザ法)を開発。さらに豊かな階調表現を可能にした(上)富士山を背景とした富士吉田市街の風景をジャカード織で再現(下)



センターが開発しているジャカード織物の手法は、お客さまのニーズに応える商品開発にとっても有効だと期待しています。また、これまでも技術面だけでなく、展示会のディスプレイなど、センターにはさまざまなアドバイスをいただいています。こうした支援により、^{はたや}機屋同士が個性を生かし、積極的に活動するようになり、企業としての自信も持てるようになりました。

最近では、織物産地を元気にするための新たなプロジェクト「ハタオリマチのハタ印」を始動しました。今後、それぞれの機屋の名前が世に知られるようになって、もとをたどればそこには産地があるというのが理想です。



ハタオリマチのハタ印では、産地の魅力を届けるため、毎月第3土曜日にオープンする織物工場直営ショップや、さまざまな情報発信を行っています

ハタオリマチフェスティバル in 富士吉田

全国のハタオリにまつわるブランドが集まる一大イベントです。
日時:10月7日(土)、8日(日) 10:00~16:00(両日とも)

ハタ印

富士技術支援センター

【問い合わせ先】

TEL 0555-22-2100 FAX 0555-23-6671

富士技術支援

現在、自然画像をもとにしたジャカード織物の生成手法を研究しています。これは、風景写真などの画像情報を解析した上で、ジャカード織に取り込み、高精細な階調表現と豊かな質感表現を兼ね備えた織物を創造する新

織が可能となります。こうした研究開発を通じ、技術革新に裏打ちされた独自のデザイン開発が促進され、世界を舞台に発展していく織物産地となるよう、今後も地域に根差した取り組みを展開していきます。

**画像をもとにした
ジャカード織物を開発**

た国際的な生地展示会「ミラノウニカ」への、県内4社の出展を支援するなど、マーケティング支援も行っています。こうした取り組みの中から世界的にも有名なブランドとの取り引きが実現しつつあり、今後パリやミラノのコレクションで、富士北麓・東部地域の織物生地が使われた新しい作品が数多く発表されることも期待できます。

現在の手法では難しかった美しい織り上がりが期待され、世界でも類を見ない繊細で表情豊かな絵柄のジャカード織が可能となります。こうした技術の実現を目指すものです。この研究成果が実用化されると、滑らかなグラデーションを持つ自然な陰影など



淡いグラデーションの表現も可能となったジャカード織。試作品の傘は、横田商店との連携により製作